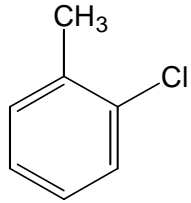


化学物質安全性(ハザード)評価シート(要約版)

整理番号	2001 - 66	官報公示 整理番号	3 - 39(化審法) 1 - 89(化学物質管理促進法)	CAS 番号	95 - 49 - 8
名 称	o-クロロトルエン 別名：2-クロロトルエン、 1-クロロ-2-メチルベンゼ ン、o-クロロトルオール		構 造 式		
分子式	C ₇ H ₇ Cl		分子 量	126.59	
市場で流通している商品(代表例) ¹⁾ 純 度 : 99%以上 不純物 : p-クロロトルエン 添加剤または安定剤：無添加					
物理・化学的性状データ 外 観：無色液体 ²⁾ 融 点：-35.6 ²⁾ 沸 点：159.0 ²⁾ 引 火 点：文献なし 発 火 点：文献なし 爆発限界：文献なし 比 重：d ₄ ²⁵ 1.0826 ²⁾ 蒸気密度：4.36(空気 = 1) 蒸 気 圧：456 Pa(3.43 mmHg)(25 ²⁾) 分配係数：log Pow ; 3.42(実測値)、3.18(計算値) ³⁾ 加水分解性：加水分解を受けやすい化学結合なし 解離定数：文献なし スペクトル：主要マススペクトルフラグメント m/z 91(基準ピーク, 1.0)、126(0.41)、89(0.14) ⁴⁾ 吸脱着性：土壌吸着係数 K _{oc} ; 170 ~ 880 ²⁾ 粒度分布：該当せず 溶 解 性：o-クロロトルエン/水 ; 374 mg/L(25 ²⁾) アセトン、ベンゼン、四塩化炭素などの有機溶媒に自由に混和 ²⁾ 換算係数：1 ppm = 5.27 mg/m ³ (気体, 20 ²⁾) 1 mg/m ³ = 0.190 ppm					

総合評価

1) 危険有害性の要約

本物質のヒトへの急性及び慢性影響については、有用な報告はない。

実験動物において、本物質の眼及び皮膚に対する刺激性が報告されている。また、本物質は消化管から速やかに吸収されることが示唆されており、急性毒性として、運動失調、正向反射消失などの中樞神経系への影響及び利尿作用がみられ、反復投与毒性ではそれらに加え、肝臓、腎臓への影響が報告されている。変異原性・遺伝毒性試験では *in vitro* の複数の試験及び *in vivo* の染色体異常試験で陰性の結果が報告されている。発がん性に関する報告はない。生殖・発生毒性試験では、ラットで吸入暴露により、母動物に影響のある用量で胎児に短指症、胸骨奇形等が報告されている。

本物質は環境中に放出された場合、水圏では生分解されにくい、濃縮性は低い。環境省のモニタリングでは大気から検出されたことがある。水圏環境生物に対する急性毒性は魚類に対しては強く、甲殻類については弱く、藻類に対しては非常に弱い。

2) 指摘事項

- (1) 実験動物において、眼及び皮膚に対する刺激性がみられている。また、急性毒性として中樞神経系への影響がみられ、反復投与毒性では肝臓、腎臓への影響が報告されている。
- (2) 化学物質管理促進法の第一種指定化学物質に指定されており、排出量の管理が必要である。

参考資料

- 1) (社)日本化学工業協会調査資料(2002).
- 2) IPCS, International Chemical Safety Cards(1989).
- 3) KowWin ver 1.66, Syracuse Research Corporation(2001).
- 4) NIST Library of 54K Compounds(1998).